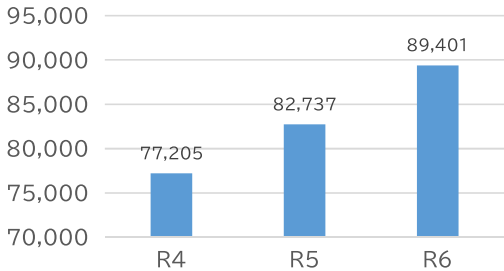


基本情報		
施設名称	八戸ブックセンター	
所在地	八戸市大字六日町16番地2 ガーデンテラス1 階	
所管部署	文化創造推進課	
設置の目的	本と出会う新たな機会を創出することにより市民の豊かな心を育み、文化の薫り高いまちを目指すとともに、中心市街地の活性化に寄与するため、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要																			
土地	土地面積	315.00			m ²	所有状況	私有地												
	用途地域	－																	
建物	建物名称	八戸ブックセンター																	
	建築年月日	平成28年12月4日																	
	延床面積	315.00			m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	4	地下	－							
	整備費用	120,876			千円	財産区分	－												
	耐震診断	不要			診断結果	－													
運営	開館時間	10:00～20:00 日曜・祝日は19:00まで					延利用者数(人)  <table><tr><th>年度</th><th>延利用者数(人)</th></tr><tr><td>R4</td><td>77,205</td></tr><tr><td>R5</td><td>82,737</td></tr><tr><td>R6</td><td>89,401</td></tr></table>					年度	延利用者数(人)	R4	77,205	R5	82,737	R6	89,401
	年度	延利用者数(人)																	
	R4	77,205																	
	R5	82,737																	
R6	89,401																		
休館日	毎週火曜及び年末年始(12/29～1/1)																		
開館日数(日)	R4	308	R5	307	R6	309													
運営形態	直営																		
利用	主な利用者	市民(全市的)		市外からの観光・ビジネス客															
	延利用者数(人)	R4	77,205	R5	82,737	R6	89,401												
	1日当たり利用者数(人)	R4	251	R5	270	R6	289												
	利用料金	入館料					貸館利用料												

駐車場の有無					職員数(人)		
駐車場の有無	無		自動車	－	正職員	会計年度任用職員	
利用時間	－		原付・バイク	－			
入出庫時間	－		自転車	－	3	4	
バリアフリーの状況					自家発電設備等		
車いす駐車場	出入り口のスロープ		障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備	
－	○		○	○	－	－	
災害指定避難					蔵書数 (冊)		
指定緊急避難場所				指定避難所			
洪水	土砂	地震	大規模な 火災				火山
－	－	－	－				－

施設運営費の状況

(単位:千円)

		令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率	令和6年度	地元 発注率
支出	人に係る経費	39,320		43,183		47,034	
	企画運営費	14,242	64%	14,543	86%	20,829	19%
	施設の維持管理費	43,397	99%	37,874	99%	39,026	99%
	うち、光熱水費	1,529		1,234		1,299	
	うち、委託料	7,189	100%	3,269	100%	3,095	100%
	合計	96,959		95,600		106,889	
収入 (財源)	使用料	372		418		497	
	その他	26,792		32,110		41,399	
	一般財源	69,795		63,072		64,993	
	合計	96,959		95,600		106,889	

施設運営費の特徴	支出経費の構成割合(令和6年度)
1. 人に係る経費 主に企画運営事業に4人、その他の施設運営や管理に3人の職員が従事しています。選書や企画運営に専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較し長く、また休館日も少ないことからシフト制とするなど、施設運営に必要な職員を配置しています。 2. 企画運営費 ・基本方針に基づいた企画事業を実施するための経費を要しています(ゲスト謝礼、企画事業委託料等)。令和6年度は、「本のまち八戸」魅力創出イベント事業を実施したことにより、企画運営費が増となっています。 ・書籍の仕入約11,400千円は棚卸資産であり、書籍が売れたときに費用となる性質のものですが、企画運営費に含めて計上しています。書籍を返品した場合は、仕入にかかった金額は全額市に返納されます。 3. 施設の維持管理費 ・テナントとして入居しており、建物借上料(15,629千円)を要しています。 ・令和6年度は修繕料や清掃、廃棄物収集運搬業務委託料、備品購入費が増となり、総額としても増となっています。 4. その他 ・その他収入の主なものは、書籍・雑貨売上収入、ブックセンター事業費寄付金です。令和6年度は寄付金や書籍・雑貨売上収入が増となったほか、「本のまち八戸」魅力創出イベント事業の財源である協働のまちづくり推進基金繰入金があったため増となっています。	人に係る経費 44% 維持管理費(その他) 32% 企画運営費 20% 維持管理費(委託料) 3% 維持管理費(光熱水費) 1%

取組の状況

設置条例	八戸ブックセンター条例
運営方針等	八戸ブックセンター基本計画書に定める施設運営の基本方針
取組の内容	1. 施設の特徴 八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、新しい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行しています。 【基本方針】 (1) 本を読む人を増やす 本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくするような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントなどを開催します。 (2) 本を書く人を増やす 本を「書く人」を増やすために、執筆専用のブースを備え無料で貸し出しするほか、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催を行います。 (3) 本でまちを盛り上げる 本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものであることから、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。 ※八戸ブックセンターの幅広い利用を促すため、令和5年12月に、こども・子育て・暮らしのテーマ棚を新設するなどの見直しを実施。

2. 主な事業

(1)セレクトブックストアの推進

様々なジャンルの入口となる本をセレクトして並べる提案型の棚づくりにより、知的好奇心を喚起すると共に、新たな本や未読のジャンルとの出会いを演出します。また、雑誌やコミック、売れ筋の新刊を中心に扱う民間書店には並び難い本を取り扱い、大型書店のある大都市との文化的環境の格差を解消することに寄与します。

(2)本のまち読書会の開催

様々なテーマを設定した「読書会」の開催や、作家・編集者・出版社などからゲストを招いたトークイベントなどを開催することにより、新たな本との出会いの創出、更に深く本を読むきっかけに繋がっています。

【令和6年度】「連続講座：哲学者の音喜多さんとサンデルを読んで『正義』の話をしよう」など

(3)アカデミックトークの開催

教育機関や文化施設などから講師を招き、本を軸にした、各分野からの専門的なトークイベントを開催することにより、本に対する興味を湧き立たせることに繋がっています。

【令和6年度】市内大学教授、県内美術館等文化施設の学芸員、地元研究家など

(4)執筆出版ワークショップの開催

小説や自分史、電子書籍のつくり方など、作家や専門家をゲストに招きながら執筆や出版に関するワークショップの開催などにより、「ものを書く・つくる楽しさ」、「発表し、観てもらう体験」に繋がっています。

【令和6年度】「ZINEステップアップ講座」、HACHINOHE ZINE CLUBミーティング・展示販売会など

(5)ギャラリー展の開催

特定の作家や作品に関する展示、本の印刷・造本・装丁など、本を切り口とした様々な展示を行うことにより、本を手に取り興味をふくらませるきっかけに繋がっています。

【令和6年度】「絵本雑誌・さがるまーたができるまで」、「本のまち こんなまち」など

(6)パワープッシュ作家イベントの開催

トークイベントや展示などで八戸に関係する作家、作品を幅広く紹介することにより、「本のまち八戸」を盛り上げるきっかけに繋がっています。

【令和6年度】「能町みね子×高橋弘希 読めない2人のスペシャルトーク&サイン会」など

(7)ブックサテライト増殖プロジェクトの実施

市内の飲食店、公共施設などと呼びかけ「ブックサテライト」として本箱を設置。それぞれの施設に合わせて選書した本を置くことにより、その場所にあった本棚がある「まち」を目指しています。

(8)本のまち八戸ブックフェスの開催

年に一度、ブックセンター、マチニワ、はっちで開催するイベントで、市民参加型の一箱古本市や市内書店の出店をはじめ、庁内関係部署とも連携しながら、本に関する様々な企画を実施することにより、本への興味喚起や中心街への来街動機に繋がっています。

(9)施設の活用(読書会ルーム)

市内読書団体などへの貸出のほか、様々な企画事業にも活用しています。企画事業参加者等へ施設利用方法が浸透してきたことにより、読書会による利用を中心に、令和5年度と比較して19件の増となっており、新たなコミュニティ形成、中心街への来街動機に繋がっています。

(10)施設の活用(カンヅメブース)

本などを執筆したい人向けに貸出しています。施設の認知度が向上してきたことや、企画事業参加者への周知等により、令和4年度から年間300件前後の利用があります。実際に本が出版されるケースも出てくるなど、「書く」ことへの動機に繋がっています。

(11)教育機関との連携

各教育機関と連携し、ブックセンター内に留まらず、各校に出向いたり、各種行事においてトークやワークショップ、その他の企画を実施することにより、若年層に向けた本への興味喚起、体験づくりに繋がっています。

(12)「元気な八戸づくり」市民提案制度(市設定テーマ部門):「本のまち八戸」魅力創出イベント事業の開催

読書量の減少、読書離れが進む中、「本のまち八戸」を盛り上げるとともに、本に対する興味喚起を図るため、ジャーナリスト・池上彰さんによる講演のほか、おはなし会や本と雑誌のリサイクルフェアなどを実施しました。



読書会ルームでのイベント状況
(写真は読書会イベント)



ブックセンター以外の会場でもイベントを実施
(写真はギャラリー展トークイベント)



ギャラリー展「本のまち こんなまち」



本のまち八戸ブックフェス
(マチニワ会場)



ジャーナリスト・池上彰さんによる「本」や
「読書」の楽しさを伝える特別講演



本との偶然的出会いを創出し、私有して
読む体験を促す「提案・編集型」の陳列

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	43,179
	企画運営費	16,538
	施設の維持管理費	40,099
	うち、光熱水費	1,354
	うち、委託料	4,518
	合計	99,816
収入(財源)	使用料	429
	その他	33,434
	一般財源	65,953
	合計	99,816

(1)維持管理費について

①維持管理費の状況

- ・民間書店と連携を図る取組の一環として、地元書店が設立した組合に対し書籍等の仕入販売返品業務を委託しています。
- ・テナントとして入居しているため、建物借上料を要しています。

②維持管理費の削減の取組

運営に支障がない範囲での光熱水費や一般事務経費の節減に努めており、今後も節減を継続していきます。

(2)財源の見通しについて

①収入の状況

一般財源を活用し専門人材や企画運営費を確保することで、民間書店や図書館で提供していない「本」に関連する公共性の高い事業やサービスの提供に努めています。文化・観光の視点からも施設の取り組みに注目され、年々「本のまち八戸」の推進を応援するふるさと寄付金が伸びており、一般財源の圧縮に繋がっています。(令和6年度ふるさと寄付金額：約23,000千円)

②収入増に向けた取組

今後も利用者の意見を聞きながら、幅広い利用に繋がる棚づくり、関係者と連携した企画事業を実施するとともに、観光コンテナツとして注目されている状況を活かし、全国への情報発信を通して、更なるふるさと寄付金確保にも努めていきます。

【参考】

1. 来館者数推移

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人
令和4年度	77,205人	6,434人	251人
令和5年度	82,737人	6,895人	270人
令和6年度	89,401人	7,450人	289人

2. 販売冊数推移

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊
令和4年度	7,017冊	585冊	23冊
令和5年度	6,881冊	573冊	22冊
令和6年度	8,640冊	720冊	28冊

3. 販売金額推移(書籍・雑貨合計額)

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	10,863,851円	905,321円	36,456円
令和3年度	10,598,560円	1,059,856円	40,764円
令和4年度	11,688,510円	974,043円	37,950円
令和5年度	11,794,432円	982,869円	38,418円
令和6年度	14,531,198円	1,210,933円	47,026円

4. 施設の活用推移(読書会ルーム、カンヅメブース)

	読書会ルーム				カンヅメブース			
	貸館		自主事業		市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	計	月平均	計	月平均	登録者数	(累計)	計	月平均
令和2年度	50件	4件	32件	3件	24名	259名	278件	23.2件
令和3年度	52件	5件	14件	1件	15名	274名	190件	19.0件
令和4年度	87件	7件	16件	1件	28名	302名	307件	25.6件
令和5年度	152件	13件	23件	2件	17名	319名	309件	25.8件
令和6年度	171件	14件	47件	4件	29名	348名	290件	24.2件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10カ月で算出(1～4の全て)